

本実践の主張の要約

本実践の主張点	「生産」だけではなく、「消費」のあるべき姿を考えることができるようにすることで、子どもは、食料生産にかかわる問題を自分事と捉えるようになり、自らの消費活動を省察することで、探究の質が高まるだろう。
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------

○子どもが省察し、探究の質を高めるためには、問題解決を自分ごとにしたいたい！

子どもが省察し、探究の質を高めるためには、前提として問題解決が自分ごとになっている必要がある。しかし、5年生の「食料生産」の単元において、「生産」にスポットを当てた実践では、なかなか子どもの問題解決が自分事になっていられないという難しさを感じてきた。特に今年度はコロナ禍にあり、生産者との直接的な出会いをしにくい状況にあり、校外学習を自粛したり、オンラインでの校外学習を実施するに留まったりしてしまい、生産者の苦労や工夫を直接的な対話をとおして実感することが不十分であった。したがって、例年以上に、問題解決を自分事にするのが難しいと感じていた。

そこで本単元では、これまで通り、「米作り」や「水産業」の学習で得た「食料生産」にかかわる知識を活用しながら、よりよい食料生産について考えることは保障しつつ、これまでの実践に比べ「消費」にスポットを当てた実践にすることで、消費者である子どもたちにとっては、問題解決が自分事になりやすいのではないかと考えた。「生産」と「消費」はつながっていることを意識し、自分たちの消費行動が「生産」に大きく影響するという認識のもと、自らのよりよい消費活動の在り方を探り、学びの中で気づいた「エシカルな視点」を自身の生活の様々な場面で生かすことができるようになる。そのような単元としたい。

生産者じゃない
しなあ。
生産者（大人）
の問題でしょ。



「生産」にスポットを当てた実践

消費者の行動が
生産にかかわる
のだから、しっ
かり考えよう。



「消費」にもスポットを当てた実践

本時の主張の要約

本時の主張点	子どもの見方・考え方を揺さぶる資料を用意し、問題解決の過程において、子どもが自ら資料を活用できるようにすることで、子どもが自ら省察し、多角的な見方・考え方を働かせ、知識を活用・発揮し、よりよい消費の在り方を探ることができるだろう。
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自分でい
ろいろ資
料を見て
見よう！



えっ？資
料を見る
と迷って
きた…。



あっ！
この資料
が使える
うだ！



自ら収集した情報によって、考えを再構成し、考えを表現するために情報を活用する

本時の主張にかかわる「しかけ」: 子どもの資料の活用と資料作成の意図

本時の「しかけ」

ロイロノートの資料箱に問題発見につながる資料を入れておき、子どもが自ら資料を活用することで考えの再構成を行うことができるようにする。(気付く「しかけ」)

小学校社会科授業において、これまでは、教師が子どもの学びの質的転換が起こるように、タイミングよく資料を提示していることが多かったように感じる。子どもの立場で考えると、教師に資料を活用させられた感が強くあるのではないだろうか。探究の学びにおける理想は、子ども一人一人が自分で探してきた資料を活用しながら、学びを進めていくことであるかもしれない。しかし、学級の子どもたち一人一人が集めてきた資料を教師が目をとおし、内容を把握し、且つ、子ども一人一人が準備した資料の内容を学級の仲間に共有し、理解してもらうことは理想ではあるが、全ての時間でそのような授業をすることは難しい。

本実践では、「資料を活用させられている状態」と「自らが用意した資料を活用する状態」の間をねらっている。すなわち、「資料は教師がある程度準備するが、ロイロノートの資料箱の中に準備された資料を子どもが自由に閲覧し、自分にとって必要で意味のある情報を選び、活用する状態」を具現化できるように挑戦しているものである。本時においては、子どもは自らの見方・考え方を働かせながら、資料を読み、必要に応じて活用する資料を取捨選択し、自分の考えを伝えるためのツールとして活用する姿を具現化したい。

地産地消のよいところ

- ①新鮮でおいしい。
- ②どようにつくられたかわかるので安心。
- ③生産者と消費者、おたがいの顔が見えるので大切にづくり、大切に食べることができる。
- ④ふるさとの料理や特産品を知ることができる。
- ⑤車での輸送距離が短いので、輸送費用が安くなり、エネルギーの節約にもなる。二酸化炭素も減らせる。
- ⑥地元の交流がさかんになり、仕事も増えて、地域が生き生きとする。

子どもが「地産地消」のよさを改めて確認した上で新たな視点を取り入れながら探究を進めることができるようにしたい。

あなたはどれを選びますか？

スーパーでチョコレートを買うとき、たなにたくさんならべられたチョコレートのなかから、何を考えて商品を選びますか？

「ねだん」「おいしさ、品質」「量」「ふくろのデザイン」または「おまけ」ですか？

商品を選ぶとき、何を考え、何を自安に選ぶのかは人それぞれです。

どのような商品を選ぶのかは、個人の自由です。

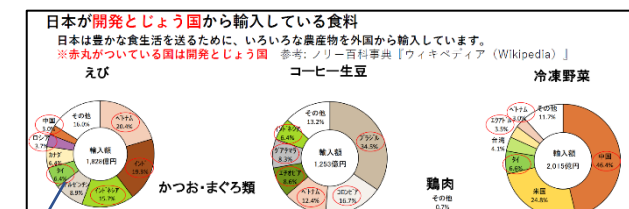
本時においては、「どのような商品を選ぶのかは、個人の自由であるからこそ、自分は〇〇な消費をする」と考えることができるようにしたい。

世界の開発とじょう国のまずしさをなくそう！

今、世界の約10人に1人が、日々の生活にもこまるようなまずしい状態です。2015年には、1日あたり約210円でくらす人が約7億3600万人いました。

まずしいくらしをしている人の多くは**開発とじょう国**(これから豊かになっていく国)に住んでいます。

「開発とじょう国の貧しさ」を何とかしたいという見方・考え方が働き、自らの消費の在り方を省察する子どもを具現化したい。



日本は「開発とじょう国」からの食料輸入に頼っている面があることを実感させたい。

フェアトレード商品を買って 開発とじょう国を応援しよう！

「フェアトレード」を日本語にすると「公平で正しい貿易、取引」です。

もともと商品の取引は、売る人と買う人の間でねだん、量、品質などの条件を両者が納得して成り立つものです。

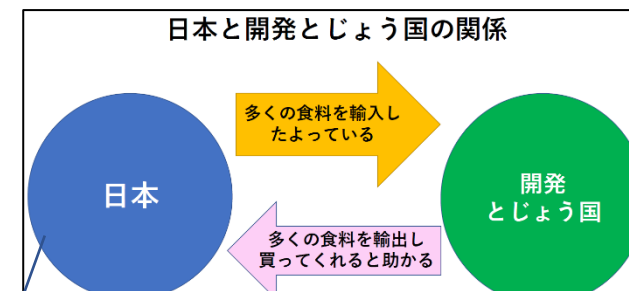
しかし、日本のような豊かな国(先進国)とフィリピンやインドネシアのような**これから豊かになっていく国(開発とじょう国)**の間の貿易では、公平で正しいとはいえないような条件で取引引きされている商品もあります。

バナナやコーヒー豆、チョコレートの原料であるカカオ豆などは、そのような商品の代表です。

開発とじょう国の人々の中には日々の生活に困るようなまずしさがある人がいて、カカオ豆の農家の中には、安い値段で子どもに働かせ、生活のための田畑をつぶしてカカオ豆を産出していることがあります。

バナナ、コーヒー豆、カカオ豆を外国の生産者の生活や労働環境を改善するために、その国の人々を支援する

「外国産＝悪」ではなく、日本が外国産を輸入することで、外国の生産者や外国の人々が救われる事例があることに気づかせたい。



「地産地消」を進めることには賛成だったけれど、そうすることで日本と開発とじょう国との関係をくずしてしまうことになり、開発とじょう国の人にデメリットが出てくるといふジレンマに気付くことで子どもの見方・考え方がより多角的になるようにしたい。

具現化したい本時における学び

授業前



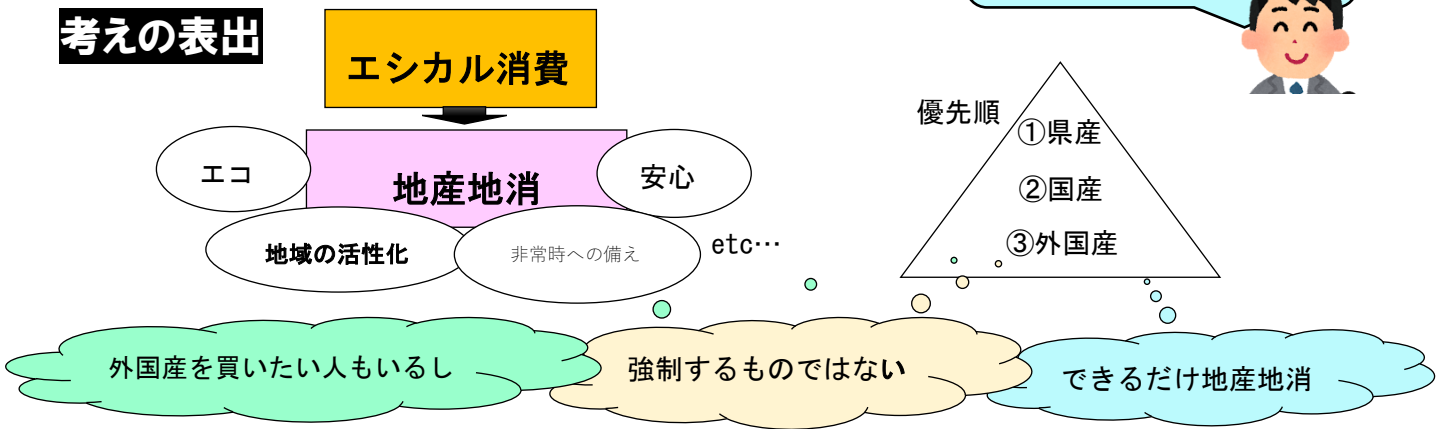
○「地産地消」をすることで地域の農家を応援することになったり、フードマイルージが減ったりするため、地域の農業の活性化や環境負荷などについて考えたエシカルな消費のよさに気付いている。

▲「地産地消」を意識するあまり、「外国産＝悪」のような思考の偏りが見られる。日本人が外国産のものを消費することで助かっている外国の生産者がいることやそれぞれの国が自国のことを第一に考える消費を進めることでデメリットを感じる人々がいることには気づいていない。

子どもの見方・考え方を広げたい！



考えの表出



気付く



地産地消を意識すると、外国の生産者で困る人がいる！



エシカルって自分の国の事だけじゃダメなのかな～。

決める・動く

地産地消も必要だし、外国産を買うことも時には必要だな～。

探究の質の高まり

授業後



自分たちができるよりよい消費

・できるだけ国産・県産を買うようにしたり、日本の食べ物を食べたりして、日本の農家の応援、地域の活性化、環境への影響のことなどを考えて消費することが大切。

・フェアトレード商品は、外国産だけど買いたいな。

◎**外国のことも**考えた消費を心がけたいけど、**地産地消**はしていきたいな。**消費**は個人の自由だし、**必ずこうしなければならない**という消費があるわけではないけど、**エシカルな消費**はやっぱり大切。

エシカルな消費が持続可能な食料生産につながる。

第4時を終えて

1	H・R	2	O・Y	3	N・M	4	S・I	5	T・A	6	O・H
自分たちができる限りのことをやっていく必要がある。家の人の都合もあるけど、できるだけ地産地消するというのをやっていく。		自分たちは人より多く地産地消を意識した消費をするべき。		国内の農家を応援するべき。非常事態に備えて、国内の農家を増やさなければいけない。少しでもいいから地産地消をしていくべき。		地産地消をしても消費者がほしいものを手に入れられるように、生産者が生産するものの種類や量を増やすべき		絶対外国産を買ってはいけないってわけではなくて、できるだけ地産地消してほしい。		地産地消を心がける必要がある。他の県のものを買うと運ばれてくる分、燃料や人の労働があるので、県産のものを買う方が節約できる。	
7	K・I	8	T・I	9	S・N	10	K・S	11	H・Y	12	N・Y
人にさせるのではなく自分たち5Bができる限りのことをやっていく必要があると思って、家の人の都合もあると思うけど、できるだけ消費するというのをやっていったらいいかなと思う。		エシカル消費が大事だと思います。でも、エシカル消費は人のためだけけど、バナナを食べたいという人へのエシカルかフードマイレージへのエシカルかを選ばないといけないと思う。		みんなのお手本になれるような消費を心がけたい。みんなが5Bの消費の仕方に協力してくれるようにしたい。		できるだけ国産、和歌山県産を買うべきだと思う。もし、和歌山産がなかったら、できるだけ国産を買う。地産地消をすると、それだけで国産の農家を応援していることになる。		地産地消をして、できるだけ安心、安全など、新鮮さ、環境のことなどを見て、買う。また、安い食べ物は賞味期限が残り少ないことが多い。		一人ひとりが地産地消を心がけるとそれは次の人にもつながる。そして、その品物がつくられた地域の人が助かる。	
13	U・M	14	S・Y	15	K・M	16	J・Y	17	T・N	18	O・H
地産地消をしない人にはしない人なりの理由がある。		食料自給率をアップさせるために地産地消をするべき。外国との関係を壊さないくらいで日本は食料自給率をあげるべき。		できるだけ和歌山産のものを買って和歌山産がないなら、外国産の物を買わずに日本産を買うべきだと思う。		和歌山のは、種類や量が限られているけど、できるだけ近くのを消費するのがいいと思う。前テレビで見たけど、外国産にこだわっている食べ物とかもあったから、できるだけがいいと思う。		生産者にも消費者にも問題があるから、生産者は作る種類を増やして消費者は地産地消を心がける。		できるだけ和歌山県産を買って、和歌山では育たないものは国産を買う。それでもダメなら外国産を買う。フードマイレージを減らすため。	
19	H・Y	20	J・S	21	U・S	22	H・M	23	U・H	24	N・R
自分たちはエシカル消費の地域に対する配慮をした消費をするべきだと思う。		まず、自分が地産地消をしないと説得力がないし、地産地消をしない。なぜなら、地域の食料が余って最終捨てられることになるから。		エシカル消費を心がけるのがよい。これ買えば社会がどうなるかとか、外はないかとかを考えればよい。限られた作物をしっかりと地産して地元でつくれるものはせめて国産をかうべきだと思います。		地産地消を心がけたい。なぜなら外国のものを輸入ばかりしていたら、日本の食料自給率を少しでも上げることができるから。でも、外国産を食べたいという人もいると思うので、できるだけ地産地消を心がけて、日本や和歌山で生産していないものは、外国産を買うしかないと思う。		エシカル消費を心がけたらいい。買いたくなくても買ったなら、生産者を応援することになる。		決して外国産が悪いわけでもないけど、二酸化炭素などがたくさん出て困ったり、輸入が止まって困ったりするので、できるだけ和歌山産を食べるといいと思う。	
		25	T・R	26	Y・H	27	S・S	28	H・M	29	M・Y
		和歌山では育たない食べ物があるから和歌山県だけ食べるっていうわけにはいかない。できるだけ和歌山県産を食べるっていうことが大事。		前時欠席		「なるべく」メガネで消費する。強制することでもないし、いつもよりなるべく、地産地消っていうのが大事。		地産地消をすると農家の人の応援になる。自分目線で考えると地産地消はできそう。25番が言った和歌山や大阪では育たない食べ物は地産地消できないので、デメリット。だから、なるべく外国産のものではなく、日本産を選ぶことが大		地産地消できるところはして、できないところは他の県で作られたものを買えばいい。和歌山県でつくれるものは和歌山県以外のものを買えばいいと思う。	

地産地消のよいところ

- ①新鮮でおいしい。
- ②どのようにつくられたかわかるので安心。
- ③生産者と消費者、おたがいの顔が見えるので大切につくり、大切に食べることができる。
- ④ふるさとの料理や特産品を知ることができる。
- ⑤車での輸送距離が短いので、輸送費用が安くなり、エネルギーの節約にもなる。二酸化炭素も減らせる。
- ⑥地元の交流がさかんになり、仕事も増えて、地域が生き生きとする。



参考：「身近でできるSDGs エシカル消費」
さ・え・ら書房

あなたはどれを選びますか？

スーパーでチョコレートを買うとき、たなにたくさんならべられたチョコレートの中から、何を考えて商品を選びますか？

「ねだん」「おいしさ、品質」「量」「ふくろのデザイン」または「おまけ」ですか？

商品を選ぶとき、何を考え、何を目安に選ぶのかは人それぞれです。

どのような商品を選ぶのかは、個人の自由です。

自由だからこそ、あなたはどのようなことを考えて商品を選ぶべきだと思いますか？

参考：「身近でできるSDGs エシカル消費」さ・え・ら書房
写真：「身近でできるSDGs エシカル消費」さ・え・ら書房



世界の開発とじょう国のまずしさをなくそう！

今、世界の約10人に1人が、日々の生活にもこまるようなまずしい状態です。2015年には、1日あたり約210円でくらす人が約7億3600万人いました。

まずしいくらしをしている人の多くは開発とじょう国（これから豊かになっていく国）に住んでいます。

まずしいと、
「十分な食事がとれない」「教育を受けられない」「体調をくずしてしまう」
など、様々な悪い影響を受けやすい状態になります。

日本が開発とじょう国から輸入している食料

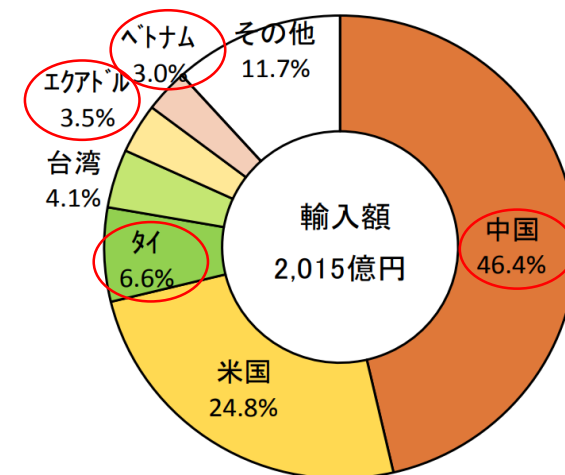
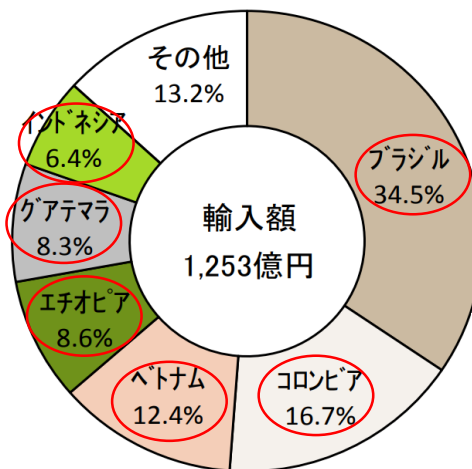
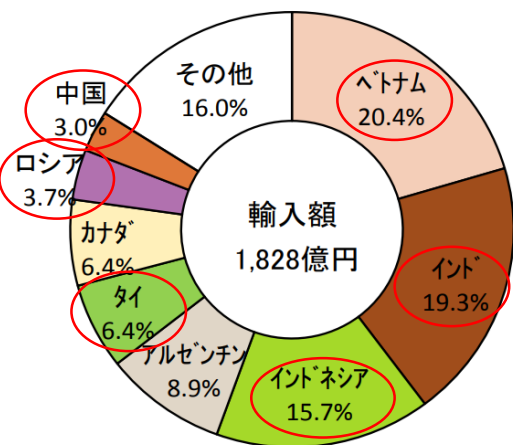
日本は豊かな食生活を送るために、いろいろな農産物を外国から輸入しています。

※赤丸がついている国は開発とじょう国 参考: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia) 』

えび

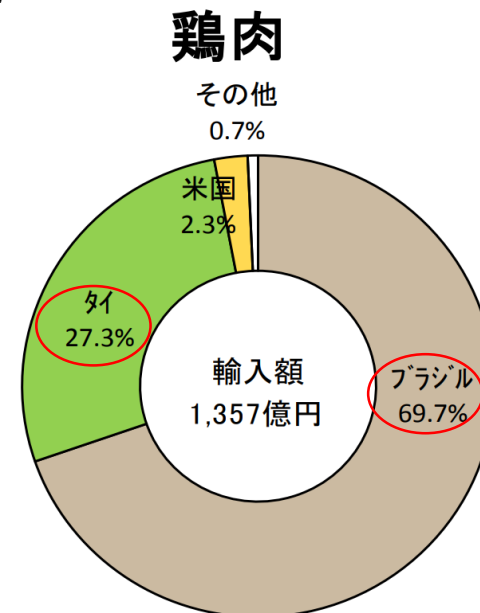
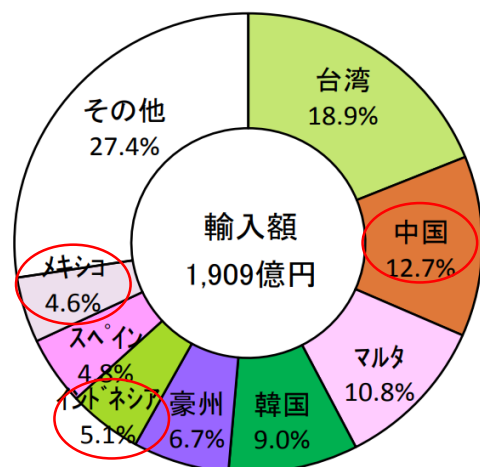
コーヒー生豆

冷凍野菜



かつお・まぐろ類

鶏肉



フェアトレード商品を買って 開発とじょう国を応援しよう！

「フェアトレード」を日本語にすると「公平で正しい貿易、取引」です。

もともと商品の取り引きは、売る人と買う人の間でねだん、量、品質などの条件を両者が納得して成り立つものです。

しかし、日本のような豊かな国（先進国）とフィリピンやのインドネシアのような**これからより豊かになっていく国（開発とじょう国）**の間の貿易では、公平で正しいとはいえないような条件で取り引きされている商品もあります。

バナナやコーヒー豆、チョコレートの原料であるカカオ豆などは、そのような商品の代表です。

開発とじょう国の人々の中には日々の生活に困るようなまずしさがある人がいて、カカオ豆農家の中には、安い給料で子どもに働かせ、生活のための田畑をつぶしてカカオ豆を生産していることがあります。

バナナ、コーヒー豆、カカオ豆を外国の生産者の苦労や働く時間にあつたねだんで買うことで、そのような生産者の生活の改善やまずしさの解消を助けることとなります。

フェアトレード商品

フェアトレード商品は、外国の生産者の苦労や働く時間にあつたねだんになっています。

スーパーに一般的に売っているコーヒーやチョコレートよりねだんが高いです。



国際フェアトレード認証ラベル

参考：「身近でできるSDGs エシカル消費」 さ・え・ら書房
写真：「身近でできるSDGs エシカル消費」 さ・え・ら書房

日本と開発とじょう国の関係

